

日程	学校名	プログラム	参加イベント名
11/8 (土)	滋賀県立虎姫高等学校	DP	オープンIB



オープンIB



オープンIBを見学させていただいた。初めに、生徒会主体で、学校の概要説明が行われ、次にIBDPの先生が中学1年生から中学3年生の生徒向けに授業をされた。最後に、虎姫高校におけるIB教育の説明がなされた。OB、OGも彼らの体験談を語ってくれ、その魅力、苦労した事、3年間を通して得たものについてそれぞれ語ってくださった。DPは大変だったけれど、他者とのコミュニケーションを上手に取れるようになったこと、間違いを恐れなくなったことが3年間の財産である、と語る彼らの姿が印象的だった。

授業見学から得た学びと気づき

英語の授業を観察し、先生と生徒の距離感や授業の進め方に興味を持った。特に、先生のトランスランゲージングの使い方が印象的で、先生は生徒の理解度に合わせて英語と日本語のバランスを調整するのみならず、時に「～やな」や「～やで」といった関西弁を交えることで、参加者が授業に親しみやすくなるような工夫をしていた。また、授業には中1から中3まで幅広い学年の生徒が参加していたが、先生は自然な形で新しい言語表現を教えていた点も印象的だった。

授業開始当初は、初対面の生徒同士で緊張が見られたが、次第に打ち解け、最後には自分の意見を伝え合う姿が見られた。たった一時間の授業で変化する生徒たちの姿に驚かされた。

生徒を深く理解する

私は、修士課程修了後に地元に戻り、教員になる予定だ。現在、地元の公立学校でもIBMYPが導入され、DPの導入準備が進められており、そこでのIB教育に関わることを目指して大学院での研究を進めている。虎姫高校におけるIB教育に惹かれたのは、教育に対する私自身の関心と、その実践の文脈が近かったからだと考える。インターナショナルスクールとは環境が異なるものの、地方の公立学校は独自の強みがあった。私は、こうした文脈を深く理解し、生徒の背景や個性に合わせた教育を提供できる教員になりたいと思う。



記事製作者 甲斐彩乃
(筑波大学 大学院 1年)